

会議議事録

会議名	第3回 教育課程編成委員会
開催日時	平成29年9月1日(金) 10:00~12:50
場所	本校舎2階 会議室
出席者	<p>①企業等委員</p> <p>吉川 順子 株式会社ポーラ エリア総括部ビューティケア・イベントチーム (アパレル開発担当) ディレクター</p> <p>黒部 和夫 カルロ インターナショナル代表</p> <p>遠藤 孝顕 一般法人日本アパレル・ファッション産業協会 事務局長</p> <p>田中克昌 株式会社TSI ホールディングス 管理本部人事部副部長</p> <p>中村康太郎 株式会社日本アパレルシステムサイエンス 代表取締役社長</p> <p>伊藤弘子 ZEROZEROESUESU INC. 代表取締役/デザイナー</p> <p>②本校委員</p> <p>布矢千春 本学院学院長</p> <p>渡邊千佳子 本学院高度アパレル専門科科长</p> <p>峯岸 恵 本学服飾造形科科长</p> <p>木村 千晶 本学ファッションビジネス科科长</p> <p>相場 千枝 本学院院长補佐</p> <p>曾根 礼子 本学院教務課長</p>
欠席者	なし
配布資料	<p>ドレスメーカー学院「教育課程編成委員会規程」</p> <p>平成28年度「教育課程編成委員会」第1回・第2回議事録</p> <p>ドレスメーカー学院「学校案内・入学試験要項」(平成30年度)</p> <p>ドレスメーカー学院「D. M. J. 会誌」</p> <p>ドレスメーカー学院「授業計画」(平成29年度)</p> <p>ドレスメーカー学院「クラス時間割表」(平成29年度)</p>
議題等	<p>1. 出席者紹介</p> <p>布矢院長より本学委員が紹介され、企業等委員が自己紹介した。</p> <p>2. 教育課程編成委員会の目的 布矢院長</p> <p>布矢院長より配布資料の説明後、本学委員会設置、編成の経緯について説明した。</p>

	<p>3. 服飾造形科教育課程の現状について 峯岸恵服飾造形科科长より資料「授業計画」に基づき、学科の教育運営と教育概要について説明された。</p> <p>4. 質疑応答 服飾造形科の教育課程について質疑応答と意見交換が行われた。</p> <p>5. ファッションビジネス科教育課程の現状について 木村 千晶ファッションビジネス科科长より資料「授業計画」に基づき、学科の教育運営と教育概要について説明された。</p> <p>6. 質疑応答 ファッションビジネス科科长の教育課程について質疑応答と意見交換が行われた。</p> <p>7. 次回日程について、 その他 次回：10月30日（月）16：00～18：00 会場は本校舎2階会議室 以上を確認して閉会した。</p>
--	--

以上

第3回 教育課程編成委員会の主な討議内容

○学校側より、本学委員会設置、編成の経緯について説明した。

- ・教育課程編成委員会の目的の確認
- ・文部科学省は専門学校に職業実践専門課程の認定を申請することを努力義務としている。昨年度は高度アパレル専門課程とアパレル技術科の申請をして認定された。今年度は服飾造形科とファッションビジネス科の申請を行う予定である。インターンシップなど企業が関わる職業教育のプログラムが1学科に最低5つ入っていること条件である。教育課程編成委員会を開催していることもひとつの条件で、業界の方のアドバイスを受け、カリキュラムに反映させるための重要な会議となっています。新たに取組まなければならない事項や改善しなければならない事項に取組んでいきたい。例えば、去年の会議の中で各科の育成人材像を明確にした方が良いとの意見を受け、その育成に応じた学びになっているかが重要と考え、育成人材像を明確にした。

○服飾造形科

資料「授業計画」に基づき、学科の教育運営と教育概要について学年ごとに説明した。

○服飾造形科の教育課程について感想を含め質疑応答と意見交換が行われた。

I 委員：2年生の「クリエイティブ実習」の授業は、生徒が多いため2つに分けた方が良いのではないかと。

一人ひとりデザインを考えて作品制作を行ない、濃い内容となっているため、40人は多過ぎる。工夫ができれば良いのではないかと。今のところは落ちこぼれなく進み、学生は予想以上に頑張っている。今現在は、デザイナー、パタンナーそれぞれの教員が指導をしており、それを実際の作品にするにあたり外側から一言投げかけると必死に受け止めている。

1年生のポートフォリオの作成はどのようなものになっているのか、自分の作品集をきれいに撮るのはスマホでも出来るので、そこを指導するともっと面白いものが出来てくるのではないかと。

E 委員：服飾造形科は2年次の実習で市場調査やCAD等を実施していますが、入学案内やPRの場合、キーワードとしてIOTという言葉を使った方が良いのではないかと。また、産学連携授業は文部科学省に申請される前提だと聞いたが、個人とか小さな会社でも通産省、厚生労働省に名前の通っている会社があるので調べてみるのも良いのではないかと。

院長：産学連携授業はプロであっても個人の講師が教えても申請対象とならない。会社と協定書を交わすことが前提となっている。広報活動の中で、IOTをキーワードとして使っていきたい。

K委員：「写真演習」について具体的だと思った。到達目標として、アパレル業界の職種を理解することを挙げているのは素晴らしいと思う。

「アパレル素材論」では、合成繊維の授業は必須である。合成繊維のポリエステル、ナイロンを教えないと製品は作れない。また、実際に素材メーカーの方に来ていただき、話をしてもらう方がよい。

「服装史」は、1回～8回が古代から始まっているが珍重しすぎる。ロマネスク、ゴシック、バロック、ロココは知識として知っていてもよいとは思いますが、ここはもっと集約して近代、現代を重点的に教えないといけない。また、第一次世界大戦、第二次世界大戦は、レディスに大きな影響を及ぼしているし、第二次世界大戦後にメンズの素材とフォルムが大きく変わった。ファッションにもっとも影響をあたえた戦争の時代がぬけている。

「色彩学」は、流行色協会の専門家を呼ぶべきある。基本は大切だが、実際はどうやって使うかであり、現場では流行色協会の資料を使って行っている。

「ファッション実用英語」、「ファッション実用フランス語」、を教えるなら中国語を教えた方がよい。百貨店で聞こえるのは中国語で販売職では特に必要ではないか。

院長：「ファッション史」は、重要だと考えている。アントワープ王立アカデミーでも4年間のうちの3年次に「近代のファッション史」を徹底的に教えた後、作品制作に入ると聞いた。特別講義で補いながら現在の講師と来年度のカリキュラムについて話し合いを行う。

T委員：「ファッション史」は、どんな職種についても必要である。中国語は、これからのビジネスにとってマーケットや取引先を考える上でも必要である。管理職でもそういう人材を捜している。

カリキュラムの到達点に対する評価の仕方、例えば低くかった時の対応はどうしているのか。

就職への進路指導があると思うが、コミュニケーション能力の育成もきちんと入っているのは、会社にとってもよい。少し足りないと感じるのは、チームプレイはどこで学ぶのか。デザインスタッフの一員やパターンスタッフの一員になった場合に、チーム連携が必要になってくるので、そういうカリキュラムがあるとよいのではないか。実際企業に入った後も重要な能力となる。

院長：コミュニケーション能力については、グループワークのワークショップを行っている。グループワークを採点し、採用を決めている企業も増えているので今後も強化していきたい。

N委員：天然繊維、合成繊維の良い所、悪い所があり、特性もあるので学生には知っておいて欲しい。

「服装史」は、昔から入っていくとどうしても今のものと繋がらない。今との距離感がでてしまう。今の服があつてそれをひも解いて行くとそこに歴史があるという方が身近に感じられるのではないか。語学は、「英語」が選択になっているが、必修なのではないか。また、パタンナーの方も

中国へ行くことがあるために中国語も入れるべきではないか。市場からしても様々なアパレルがあると思うが、日本の服がどのような形で海外にどうやって出て行くかが大きなテーマでもある。「特別講義」などの授業で、成功事例、失敗事例をリアルな視点で聞けると非常に良いのではないか。

Y委員：人材像がはっきりしているのはすごいと思った。

現実的に2/3が販売職になっている。最初から求めなくとも販売職になるという可能性もある中で、自分自ら求めていけるということであればすごく良いと思う。

お客様をどう魅力的に変えるかが販売員の力である。販売もクリエーションで、その力を養う授業があると販売員になった時にやりがいも感じる。そういう持って行き方も大切である。

クリエーションのデザインを教えるのは難しく、評価の基準がすごく難しい。評価の基準はどうなっているのか到達点を知りたい。仕事をしていると、デザイナーなのに絵が下手で伝わらないデザイナーを目指す人には、人に伝えるのは絵となるため、基礎的な事にも目を向けてカリキュラム内容を充実させていただくと良いと思った。「素材論」については、合成繊維を入れないと絶対いけないと思う。「服装史」は、自分の勉強した時と変わっていないので変えていかなければならないのではないか。グループワークになった時、リーダー的な人とサポートに回ってしまう人っている。学生の間は、リーダー側とサポート側の二つを経験すると企業に入ってから生きるのではないか。

院長：クリエーションの評価の基準は難しく、考えていかなければならないことである。今は、教員個々に任せてしまっているのが現状である。販売員の育成については、スタイリストの授業を接客スキルに変更した。スタイリングやコーディネート授業は年間通してやらなくとも、特別講義としてもう少し増やすことを考えていかなければならないと思う。

○ファッションビジネス科

資料「授業計画」に基づき、学科の教育運営と教育概要について学年ごとに説明された。

○ファッションビジネス科の教育課程について質疑応答と意見交換が行われた。

I委員：販売に関しては、接客やロールプレイングの授業があるようですが、ネット販売などに対する文章指導の授業はあるのか

K科長：いくつかの科目で商品説明をはじめ、文書を書く機会を多くしている。「スタイリング実習」では、コーディネート撮影を行ない、それをレイアウトするのだが、必ず商品説明やコメントを付けることを課題としている。ただ、それをネット販売のケースとして具体的には実施していない。

E委員：かなりのスピードでデジタルの波が押し寄せている。アナログの必要性と一方でデジタルの理解と対応は重要である。e コマースへの勉強の場をより具体的に提案することや、教えてもらう事を生徒は望んでいる。パソコンスキルがかなり出来なければならない。さらに、棚卸しも今は赤外線を使ってさらにICチップで管理している。現実では販売職は、接客以外の仕事が多非常に多い。棚卸やクレーム対応、フロアの責任者への報告等と様々である。ポイントは、販売に徹して販売の質を高め、それを接客に活かしたいが、時間がなくて出来ない部分は、デジタルを使って行かなければいけない。パソコンでデザイン画を描き、デジタル的な活用の仕方を常に外部講師の方から取り入れて、カリキュラムの中に取り組んで行くべきではないか。

院長：e コマース（e c）は演習のところまではやっていないが、WAVEは授業で作成している。ただ、カリキュラムとしてやっていることが見えていないため、e cの授業は、もっと踏み込み、11月から行われるカリキュラム会議の中で再検討していきたい。

K委員：ファッションビジネス科は素晴らしいと感じます。ドレスメーカー学院としても一番注力する科ではないか。日本のビジネスのe c化率が14.5%になっている。e cに対応出来る人材の育成を火急にしていくことが必要。今後は、間違いなくe cに向かって行き、現在もe cの人材の確保が大変な状況となっている。「ファッションビジネス科」というのも、実際何をしているか分かりにくく、学科名を『e cビジネス科』とした方がよいくらいで、そこを強化されたらよいのではないか。

T委員：実際、求める人材像にe cの人材があるのは事実である。真剣に考えていかなければならない。一方でリアル店舗がなくなる訳ではないので、販売に特化した教育をしているのは我々にとってもありがたい。カリキュラムの中に「計数管理」のような内容のものがないように思えるがどうなのか。また、販売職の先にあるもの、つまりバイヤーやスーパーバイザー、マネージャーへのキャリアアップがあるということを伝えて欲しい。

院長：「計数管理」については、「マーチャンダイザー」の授業で理論的に学び、「プレゼンテーション」の授業でエクセルを使って学ばせている。実際は、育成人材像にバイヤーを入れていたが、新卒でバイヤーの就職がないために削除した経緯がある。キャリアアップの中で勝ち取る職種と考えている。

N委員：AIが関わるe cビジネスは前進しているところだが、学生を含めて皆さんで、今後のAIがどう影響していくのか研究していくことが大きなテーマとなり、価値があるような気がする。今の社員をみていると、スキルは持っているが大きな提案がしにくい所があるので、是非、取組み、今後活かして欲しい。

Y委員：カリキュラムを見ていると、育成人材像が販売職だけでないと思う。ビジョンが描ける説明が必要なのではないか。

アパレル商品知識に関しては、布帛だけではなくニット、カットソーの知識も必要ではないか。洗濯の絵表示や取扱いの知識が販売員に少ない気がしているので修得してほしい。

院長：洗濯などの取扱い表示等については、企業に依頼して特別講義として実施している。

ニット、カットソーについては、作るための仕様書の指導はしているが、商品知識のところまでいっていないため、強化していきたい。

会議議事録

会議名	第4回 教育課程編成委員会
開催日時	平成29年10月20日(金) 16:00~17:30
場所	本校舎2階 会議室
出席者	<p>①企業等委員</p> <p>黒部 和夫 カルロ インターナショナル代表</p> <p>遠藤 孝顕 一般法人日本アパレル・ファッション産業協会 事務局長</p> <p>中村康太郎 株式会社日本アパレルシステムサイエンス 代表取締役社長</p> <p>②本校委員</p> <p>布矢 千春 本学院学院長</p> <p>渡邊千佳子 本学院高度アパレル専門科科长</p> <p>峯岸 恵 本学服飾造形科科长</p> <p>木村 千晶 本学ファッションビジネス科科长</p> <p>相場 千枝 本学院長補佐</p> <p>藤田 里恵 アパレル技術科特任講師</p> <p>諸山 七生 アパレル技術科 助教</p> <p>曾根 礼子 本学院教務課長</p>
欠席者	なし
配布資料	<p>高度アパレル専門課程 「実習・演習等において連携する企業等一覧」</p> <p>アパレル技術科 「実習・演習等において連携する企業等一覧」</p> <p>「第3回教育課程編成委員会 検討事項について」プリント</p>
議題等	<p>1. 「産学連携授業について」</p> <p>渡邊千佳子高度アパレル専門科科长 より産学連携授業について説明した。</p> <p>藤田 里恵アパレル技術科講師より産学連携授業について説明した。</p> <p>2. 質疑応答と意見交換</p> <p>高度アパレル専門科とアパレル技術科の産学連携授業について質疑応答と意見交換が行われた。</p> <p>3. 第3回教育課程編成委員会での検討事項について</p> <p>峯岸 恵服飾造形科科长より服飾造形科の改善点について説明した。</p> <p>木村 千晶ファッションビジネス科科长よりファッションビジネス科の改善点について</p>

	<p>説明した。</p> <p>布矢院長より 2 学科の共通項目科目についての改善点を説明した。</p> <p>4. 質疑応答と意見交換</p> <p>服飾造形科とファッションビジネス科の教育課程の改善点について質疑応答と意見交換が行われた。</p>
--	---

以上

第4回 教育課程編成委員会の主な討議内容

○学校側より（院長）

高度アパレル専門科とアパレル技術科については、昨年「職業実践専門課程」の認可を受けている科で、産学連携のプログラムが最低5個以上入っていなければならない、それを文部科学省に申請し、毎年きちんと実施して3年に一度全書類の提出となっている。カリキュラムに応じ毎年実施していることが条件となるため、その内容を見直し、変更しているところもあるため報告をします。

○「産学連携授業について」

高度アパレル専門科科長より、現在行っている高度アパレル専門科の「産学連携授業」について説明した。【職業実践専門課程】の申請時の項目は変わっていないが内容が少し変わった。

アパレル技術科講師より、現在行っているアパレル技術科の「産学連携授業」について説明した。

○高度アパレル専門科とアパレル技術科の産学連携授業について質疑応答と意見交換が行われた。

N委員：アパレル技術科での講義後にインターンシップを実施することは、連携を取る流れができているので良いと思っている。学生が講義で内容を知り、緊張感を持ってインターンシップに臨む流れになっていけば良いと思っている。

K委員：この会議は、いつの時点の授業の改善についてなのか、再来年からの実施なのか。

院長：今年度11月にカリキュラム会議に入り、来年の4月からの授業から反映させていく。前回、ご意見をいただいた内容で、特別講義で実施できるものは、今年度から実施する。

K委員：9月1日に実施した会議で私なりに申し上げた。その後、理事長にも申し上げた。重要なのは2大ポイントで、ひとつはe cビジネス、もうひとつは中国語。9月から7週間あった。企業では朝9時に言った事を11時に変えると言うのが頻繁にある。そのくらいやっついていかないと今の時流に乗れない。企業側のみなさんもずっと思っていることだと思う。この7週間で先ほどの2つが何も反映されていないのが、冒頭にいった再来年の授業について我々は意見を言っているのかと勘違いした。

実習も有意義だと思うが、今、可急的かつ速やかに学生を受け入れられる企業の事を考えたら、e cビジネスを行っている会社や中国語を扱っている会社にインターンに行く事が学生にとって有意義な時間になるのではないか。企業側でそう思っているところも多いと思う。

先日、人事部長の方も出席していたが、どの部門やジャンルでもいい、技術でも営業でもデザイ

ナーでも中国語がしゃべれたらいいと言っていたし、そういう人材が欲しい。織研新聞の一面にZOZOTOWN、アマゾン、いま世界の企業は何をしているかを学生にはっきり言った方がいいと思う。いま主戦場はそこに移っている。アマゾンは、品川に巨大な倉庫を作って全ての機能を備えたスタジオを作って、30万からの商品の発送が出来る体制をつくっている。ZOZOTOWNは何を考えているかというと、いま一人勝ちで、PDで開発してもっと粗利が大きくなる。勝ち組のユニクロは、日本にSPAを持ってきて自ら作り自ら販売する。いま世界でものすごい店舗数を持っている。———のショップで買うと1着30万円のものが1万円でお釣りがくる。

今、アパレルが疲弊している。百貨店も衣料品の売り場も共通しているがいいところが一つもなく、これからどうなるのかというと、ZOZOTOWNがNBを作った場合、粗利の計算をするとユニクロの値段の6掛け位で出せる。間違いなく伸びる。だとしたら、ZOZOTOWNやアマゾンはすぐ近くなので、院長が頼めば話も聞いてくれると思う。学生も近くで行きやすいのではないかと。eビジネスと中国語を使って、対中国貿易をしているようなところで学生が実習・演習するが学生にとって有意義で、学生の就職が非常に良くなる。就職率ではなくてマッチングの話で、デザイナーもパタンナーもMDも必ず伸びるゾーンの所にいける、それがドレスメーカーだと言うと日本中から学生が集まってくる。

院長：アマゾンに関しては、突破口がないか考えていて、コネクションがないので少し努力しているところでは。

E委員：専門職としてのそれぞれのカリキュラムについては、よろしいかなと思うのですが、社会的にプラスされることが半年から1年でどんどん変わっている中での対応の仕方を考えると、eコマースであったりITチップスであったり、マーケットインする姿勢、学生にとって実務的なインターンシップも大切だが、それ以外にeコマースや販売員を希望しているなら海外の方と対応出来るか。専門用語もあるので勉強していただきたい。そういった所をカリキュラムのなかで付加して頂ければ、AIというのも目の前にきているので、AIそのものが一体何なのかも丁寧にひも解き、講義の中に入れて頂くと即戦力となると思う。

院長：カリキュラムを変えることは、きちんと品川区に届け出をしなければならない。学校案内にきちんとカリキュラムを載せ、入学する学生にきちんとそのカリキュラムで指導することになっている。例えば、高度アパレル専門科は4年制のため4年生の内容は、4年後に実施できる。学校と企業とのキャップをどう埋めていくが課題です。

○第3回教育課程編成委員会での検討事項について

服飾造形科科长より服飾造形科の改善点についての回答を説明した。

- ・「クリエイティブ実習」については、グループごとにして実施していきたい。
- ・「アパレル素材論」については、産学連携の「マーケティング」の授業の第1回目で合成繊維について詳しい話をする。2年次の「ファッションテキスタイル」の授業の中で合成繊維についての授業を増やしていくということで担当教員と詰めて実施したい。

ファッションビジネス科科长よりファッションビジネス科の改善点についての回答を説明した。

教科というより全体的なことの3つを挙げた。

- ・商品説明やファッション解説文を書くことはいろいろな授業で実施している。

例えば、「スタイリング実習」の授業で、コーディネートしたスタイルや商品を撮影し、パソコンでレイアウトする課題など。ただ、ネット販売ページに特化した内容ではないので、今後は、e c事業関連をどのように授業に取組んでいくか検討していきたい。

- ・e c教育の強化について

現在「メディアマーケティング」の授業でWeb系の仕事をしている外部の方を呼んで授業をし、「エディトリアルワーク」で実際にWebサイトを作るという授業を連動してやっている。

また、特別講義には、アパレル会社のe c事業部の方を呼んでいるが、年間のカリキュラムとしてe cというものをに入れていった方が良いと考えている。今すぐ出来る事として、「ファッションビジネスナレッジ」の授業で織研新聞やWWDのニュースを学生に読ませてレポートを書くなどして、意見交換を行ってみた。興味を持たせることができるのではないかと思いますので続けていきたい。

全体的に学生一人ひとりのモチベーションが低く、どう興味を持たせるかが課題であり、授業の仕方を工夫していきたい。

- ・販売に特化した教育について

1年生の「販売スキル」の授業で売り場の数字について学ぶ機会があります。2年生は「マーチャンダイジング」を学ぶ授業で時間をかけてファッションを数値に置き換える内容やExcelの実習を入れている。

販売の現場とどの程度あっているものかというのを今後検討していきたい。

○院長より2科に共通する科目の改善点についての回答を説明した。

- ・「アパレル素材論」の強化について

担当教員に相談してみたところ服飾造形科の2年生の授業の中でも少しだが教えており、3年生に進級した学生にも教えていた。1年生には、基本的な内容の授業を行なっている。講義が多いと興味を示さないため、現物を見せながらの授業が良いので2年生の授業に入れるよう指示をした。もっと現物の素材を見せて指導する授業をしようと思う。

インファスと契約しているため、ファッションショーが全て拡大して見られるようになっているので、コレクションの素材解説をファッションと結びつけて教えられたらと思う。

・「服装史」について

3月にミリタリーの授業をK氏にお願いしたい。3月に行く海外研修のF I Tでは、図書館が充実していて活きた服装史として実物を見せながら、学芸員が年代別に追って説明している。

現在、本学院で教えている教員は、アパレル経験者ではなく学問として服装史を捉えている。

・「色彩学」について

年明けに検定対策をお願いする。

・「中国の現状の特別講義」について

S氏にお願いしてあり、年明けになると思う。

・「中国語」講座について

中国語の講義について選択科目に入れることは可能である。

・I T関連について

I T関係については、本学として強化していかなければならない。環境も校舎に情報セキュリティがかかっており、Wi - Fi を入れることを来年度予算申請して携帯を使つての授業が出来るようにする。

e cを使つての指導が出来る方が1名いるが、そこを探していくのがこれかからの課題になる。

○服飾造形科とファッションビジネス科の教育課程の改善点について委員からの質疑応答と意見交換が行われた。

N委員：化学繊維については、ドレーピングのような感性的なところだけでなく、機能的なものもかなり進化していてウェアブル的なところで血流や心拍数も入っている。ファッションの流行とも関わっているのでは是非どこかに組み込んでいただけたらと思う。難しいところがあるがスポーツメーカーとの話も是非加えて欲しい。

K委員：アマゾンファッションウィークのヒカリエのイベントで「スローイングダウン、ファストファッション」という1時間ほどの映画を上映している。イギリスでは、合成繊維の安い服を埋め立ていてパタゴニアの日本支社長の辻井さんが言っていたのだが、日本では税金も高く焼いて処分している。

ロックシンガーのアレックス・ジェームスさんが作った映画で、“羊毛がすばらしい”ということを行っている映画。合成繊維の中でもものすごく進んでいるものもあるが、土に埋めると生分解していくものや、パタゴニアが企画したもので、穴が開いた服を持ってきたらミシンを持ってきてその場でリペアすることをしたら200人も集まった。

羊毛万歳だけでなく、羊毛にはない機能で合繊もすごく進化していて、その機能もどうしても必要

ですしそれを示している映画。ウールマークカンパニーが出版社のハースト社とでキャンペーンフォーウールとしてウールの良さを見直そうと主催した映画です。この1時間程度のものを見せる機会があってもいいのではないかと。

ファッションビジネス科の科長の指導は素晴らしい取組みだと思う。人数が少ないがデザイナー、パタンナーになるために技術を身に付けるのとは違って、ファッションは好きだが何をしたいかわからない学生が多い人といわれていたが、こういう人ほど明日のビジネスでマーチャンダイザーやバイヤーとかの指揮者が必要となり、今後の課題でしょう。

E委員：クリエイティブ力はいつの時代にも必要で、ただそれを具現化し、お客様に理解していただく時に職人的な要素よりも、より皆さんがスピード感を持って手に入れたり表現したりするところのデバイスであり、ツールが必要である。「メディアマーケティング」の授業の中に取り込み、キーワードとしてICT等として、インフォメーションコミュニケーションテクノロジーですと入れる事によって、コミュニケーションが大切な事、もっと身近で皆が使えるもので、その一つがスマホですよというところから入ってもいいのでは。それを活用することで、クリエイティブ力をもっと無限に広がっていくことがモチベーションを上げることに繋がってくるのではないかと。そういうデジタルやクリエイティブを支えるツールとして考えていったらよいのではないかと。

院長：参考になる意見をいろいろ頂きましたので、これを活かしたい。まとめてHPに公開させていただきます。まとめたものを委員の方にもお送りいたします。

会議議事録

会議名	第5回 教育課程編成委員会
開催日時	平成29年10月23日(月) 16:30~18:00
場所	本校舎2階 会議室
出席者	<p>①企業等委員</p> <p>伊藤 弘子 ZEROZEROESUESU INC. 代表取締役/デザイナー</p> <p>田中 克昌 株式会社TSI ホールディングス 管理本部人事部副部長</p> <p>吉川 順子 株式会社ポーラ エリア総括部ビューティケア・イベントチーム (アパレル開発担当) ディレクター</p> <p>②本校委員</p> <p>布矢 千春 本学院学院長</p> <p>渡邊千佳子 本学院高度アパレル専門科科长</p> <p>峯岸 恵 本学服飾造形科科长</p> <p>木村 千晶 本学ファッションビジネス科科长</p> <p>相場 千枝 本学院院长補佐</p> <p>藤田 里恵 アパレル技術科特任講師</p> <p>諸山 七生 アパレル技術科 助教</p> <p>曾根 礼子 本学院教務課長</p>
欠席者	なし
配布資料	<p>高度アパレル専門課程 「実習・演習等において連携する企業等一覧」</p> <p>アパレル技術科 「実習・演習等において連携する企業等一覧」</p> <p>「第3回教育課程編成委員会 検討事項について」プリント</p>
議題等	<p>1. 「産学連携授業について」</p> <p>渡邊千佳子高度アパレル専門科科长 より産学連携授業について説明した。</p> <p>藤田 里恵アパレル技術科講師より産学連携授業について説明した。</p>

	<p>2. 質疑応答と意見交換</p> <p>高度アパレル専門科とアパレル技術科の産学連携授業について質疑応答と意見交換が行われた。</p> <p>3. 第3回教育課程編成委員会での検討事項について</p> <p>峯岸 恵服飾造形科科长より服飾造形科の改善点について説明した。</p> <p>木村 千晶ファッションビジネス科科长よりファッションビジネス科の改善点について説明した。</p> <p>布矢院長より2学科の共通項目科目についての改善点を説明した。</p> <p>4. 質疑応答と意見交換</p> <p>服飾造形科とファッションビジネス科の教育課程の改善点について質疑応答と意見交換が行われた。</p>
--	---

以上

第5回 教育課程編成委員会の主な討議内容

○院長より

高度アパレル専門科とアパレル技術科については、昨年「職業実践専門課程」の認可を受けている科で、産学連携のプログラムが最低5個以上入っていないと認められず、それを文部科学省に申請し、毎年きちんと実施して3年に一度全書類の提出となっている。カリキュラムに応じ毎年実施していることが条件となるため、その内容を見直し、変更しているところもあるため報告をします。

○「産学連携授業について」

高度アパレル専門科科長より、現在行っている高度アパレル専門科の「産学連携授業」について説明した。申請時の項目と変わっていないが内容が少し変わった。

アパレル技術科講師より、現在、行っているアパレル技術科の「産学連携授業」について説明した。

○高度アパレル専門科とアパレル技術科の産学連携授業について質疑応答と意見交換が行われた。

I委員：デジタルで作らましようという方が個人的にも出来るし、フォトショップとかできちんと作るというより携帯アプリで出来るものがあるのではないかと。生徒自身が応用できる物に取組んだ方が実践的なのではないかと。自分で作った作品をフェイスブック等に載せて発信して学校にも返ってくるようにした方が良いのでは。発信というのを是非したら良い。他の学校の授業で映像を作ってもらったのですが、どういうのが効果的なのか調査をし、動画を撮ったらどうかという事もできる。

院長：携帯を教えるカメラマンは確保している。高度アパレル専門科では、今年は一瞬レフを教えることとしたポートフォリオを作る授業をしているが、発信の所までは行っていない。服飾造形科ではスマホを使ったカメラの授業をしている。アップして公表してもらうよう推進していかなければならない。自分たちであげる事によってどういうのが効果的なのかを含めて検討していきたい。

T委員：各科の5つの課題がきちんとこなせているのか。完全に最後まで完成して行って各学生の就職活動に誇れるものというか自分の特技になっているのか。取組み事態は全く問題ない。自分の学生時代の自慢の取組みとなるのか。5つというのは多くはないのですが、やっている方々の取組みの姿勢はどうなのか。

院長：服飾造形科のココベイの授業とシナジープランニングの取組の授業は繋がっている。ココベイの授業でリサーチしたものを皆の前でプレゼンをする初めての経験をし、2年目にシナジープランニングの授業で活かされ、グループ制作で企画をする満足度はあると思う。ココベイの授業でどの程度活かされているか詳しくリサーチしていない。ココベイの外に行き実物を見るのも

大きな目的である。フロンドールのインターンシップも大切に、行って様々な経験をしてくる。TOKIの取組みは、かなり高度な内容を教えていてPDCAサイクル等も入っていて4年生でないと理解出来ない。トコーの取組みは、作るのは好きなのだが前の年にやった取組みからレベルが上がっているかは疑問があり、検討してポートフォリオの方に力を入れても良いのかとも思う。

T委員：1. ココベイで準備の学習をして 2. シナジーで成果 4. TOKIで実践に向けての学習
5. トコーは、必須でなくてもいいかもしれない。ただその代わりに何をするか。

院長：アパレル技術科は、JASSでCADを修得し、オンワード樫山のインターンシップとは連動している。とても上手くいっている。

SHINDOもメンズ制作でかなり満足感があり、そこでのモチベーションが東京コレクションで活躍しているS氏が教壇に立って教えてもらえることで高くなることに繋がる。

ジーンズの解体も大事だと思っている。リメイクはアパレル技術科にとって必要なのかと、もう少し検討していきたい。

T委員：デニムでなければならない必要性がないだろうし、リメイクよりはきちんと作る方に力を入れた方が良いと思う。SHINDOの取組みは、メンズを知っているという事は非常に良いと思う。

Y委員：高度アパレル専門科のトコーの取組みは、商品化するのを目的とするならば、アイデア商品的な要素もあり、業界と違うところにした方が良い。デザイナーも居ないこともあるので、会社を選び直した方が良いのではないかと。他で商品化というのがチャレンジできるのならポートフォリオとかに変えていくのも一つかと思う。

布矢院長：商品化は、学生にとってはかなりレベルの高いものになる。TOKIでの取組みは、商品化にならなくとも生産面でかなりやっている内容が濃く、実践的にやっている。

○第3回教育課程編成委員会での検討事項について

服飾造形科科长より服飾造形科の改善点についての回答を説明した。

- ・「クリエイティブ実習」についてはグループごとにして実施していきたい。
- ・「アパレル素材論」については、産学連携の「マーケティング」の授業の第1回目で化学繊維について詳しい話をする。2年次の「ファッションテキスタイル」の授業の中で化学繊維についての授業を増やしていくということで担当教員と詰めて実施したい。

ファッションビジネス科科长よりファッションビジネス科改善点についての回答を説明した。

教科というより全体的なことでしたので、3つ挙げた。

- ・商品説明やファッション解説文等を書くことはいろいろな授業で実施している。

例えば、「スタイリング実習」の授業で、コーディネートしたスタイルや商品を撮影し、パソコンでレイアウトする課題など。ただ、ネット販売ページに特化した内容ではないので、今後は、e c 事業関連をどのように授業に取組んでいくか検討していきたい。

- ・e c 教育の強化について

現在「メディアマーケティング」の授業でWeb系の仕事をしている外部の方を呼んで授業をし、「エディトリアルワーク」で実際にWebサイトを作るという授業を連動してやっている。

また、特別講義には、アパレル会社のe c 事業部の方を呼んでいるが、年間のカリキュラムとしてe c というものを入れていった方が良いと考えている。今すぐ出来る事として、「ファッションビジネスナレッジ」の授業で繊研新聞やWWDのニュースを学生に読ませてレポートを書くなどして、意見交換を行ってみた。興味を持たせることができるのではないかと思うので続けていきたい。

全体的に学生一人ひとりのモチベーションが低く、どう興味を持たせるかが課題であり、授業の仕方を工夫していきたい。

- ・販売に特化した教育について

1年生の「販売スキル」の授業で売り場の数字について学ぶ機会があります。2年生は、「マーチャンダイジング」を学ぶ授業で、時間をかけてファッションを数値に置き換える内容やExcelの実習を入れている。

販売の現場とどの程度あっているものかというのを今後検討していきたい。

○院長より2科に共通する科目の改善点についての回答を説明した。

- ・「アパレル素材論」の強化について

担当教員と話す服飾造形科の2年生の授業の中で少しだが教えており、3年に進級した学生にも教えていた。1年生では概要をやっている。講義が多いと興味を示さないので現物を見せて説明していったほうが良い。2年生の授業に入れるよう指示した。もっと現物の素材を見せて指導する授業をしようと思う。インファスと契約しており、ファッションショーが全て拡大して見られるようになっているため、コレクションの素材解説をファッションと結びつけて教えられたらと思う。

- ・「服装史」について

3月にミリタリーの授業をK氏にお願いしたい。3月に行く海外研修でFITに研修に行くと図書館が充実していて生きた服装史として実物を見せて、学芸員が年代別に追って説明してくれる。本学院で指導している教員は、アパレル経験者ではなく、学問として服装史を捉えている。

- ・「色彩学」について

年明けに検定対策をお願いします。

- ・「中国の現状の特別講義」について

S氏が得意な分野であるので講義を依頼してあり、年明けになると思う。

- ・「中国語」講座について

中国語の講義について選択科目に入れることは可能である。

- ・IT関連について

IT関係については、本学として強化していかなければならない。環境も校舎に情報セキュリティがかかっている、Wi-Fiを入れることを来年度予算申請して携帯を使つての授業が出来るようにする。

ecを使つての指導が出来る方が1名いるが、そこを探していくのがこれかからの課題になる。

○服飾造形科とファッションビジネス科の教育課程の改善点について委員からの質疑応答と意見交換が行われた。

I委員：学生は、テキスタイルの情報がないのでせっかくいいデザインやパターンが残念なものになってしまう。プルミエールビジョンを勉強するより、インファスの画像を見てどのようにドレープが落ちるか等の情報を知れば、生徒たちも生地を選ぶ時の情報源に繋がる。そういうチャンスがないと見ないため、海外のコレクションを見るなどのきっかけを与えることによって、皆でリサーチをしてデザイン画に返ってくるので、すごく良いと思いました。

T委員：ネット販売についてこういう形でいきますと言うことがはっきりしており、学校の活動の中でecという言葉があると採用が全然違う。ec人材というのが中途採用でもどこの会社でも探している。そうすると非常に広がる。企業側からするとそれができたほうが良い。即戦力が足りていない状況が当分続くと思う。そうしていかないと会社が伸びない。販売の中で計数管理というものもあったが、販売の先の事、販売を極めて店長という道もあるが、バイヤー・スーパーバイザー（買い付け・複数の管理者）、マネージャー（マネジメント）、トレーナー（販売の技術がある指導する人）販売から離れたそういう仕事があるということも伝えると、販売というところに一層興味を持ってくれるのではないかと。これからの時代、その点をきちんとしていかないと販売職はできない。学生の皆さんに伝えて欲しい。

Y委員：素材論のところ、協力する会社や機会があれば、プルミエールビジョンとかを見に行かなくとも生地屋さんの展示会も結構良いのではないかと。総合的な生地屋さんであれば、天然繊維も化学繊維の部署もあり、面白いものを見る機会となり刺激にもなると思う。合成繊維の授業については、例えば、福井等に行き、工場を見学すると自分の知っている生地の規模感が違い勉強になるのでは

ないか。 堺市の工場を見学した際に、原糸が納品されている所から見させていただき、人工血管を作っている所もあり、規模が大きく、輸出もしている。そういうところに協力をしていただければ良いのではないか。

院 長：工場見学も実施しており、2年続けて米沢に行き、来年は、尾州を計画している。播州も検討したことがある。アパレル技術科は、縫製工場で富士吉田、伊那に行っている。さらに検討していきたい。

I 委員：服装史のことでいうとココベイのN氏の本にそのものがあって、実践的にN氏にやっていただくのは良いと思う。

院 長：参考になる意見をいろいろ頂きましたので、これを活かしたい。今年度は2回開会しましたのでまとめてHPに公開させていただきます。まとめたものを委員の方にもお送りいたします。